

巻頭言

ウェブ調査の科学性とは何か

大隅 昇

調査環境の大きな変化、たとえば、回答率の低下、調査不能の増加などで調査の質の確保が難しくなった。ウェブ調査も例外ではなく未解決の課題が山積する。ウェブ調査データは便利な商品となり商用化がかなり進んでいる。日本マーケティング・リサーチ協会「経營業務実態調査」によると、回答登録会員社のアドホック調査に占めるインターネット量的調査の割合はおおよそ半分（2016年が49.7%、2017年が47.9%）にのぼる。最近は学術研究でも便利な調査手段として利用頻度が増えている。しかしウェブ調査の特性の“科学的な検証”は未だ十分とはいえない。

国内の大半のウェブ・パネルは非確率的パネル（ボランティア・パネル）であり、これを抽出枠とする調査対象は一般母集団を代表しておらず、そもそもインターネット母集団も明らかではない。非確率的パネルの利用が非標本誤差（測定誤差、カバレッジ誤差、無回答誤差など）の誘因となるがこれの検証も十分ではない。評価指標である参加率、中断率、無回答率などの開示例はほとんど見られない。AAPOR、ISO、ESOMARは参加率利用を勧めているが、国内のウェブ調査でこれをみたことはほとんどない。パネル登録者の勧誘方法や勧誘率、登録者数と属性分布、調査依頼頻度、パネル疲労抑止手当などのパネル運用管理情報も多くは不透明である。

情報通信技術の進歩で調査システムやデータ収集面の効率化は格段に進み、紙の調査票に比べ見栄えのよい回答し易い調査票が作成できる。一方、質問量増加やグリッド、分岐やパイピング、回答制御などを用いた複雑な調査票設計で回答負荷が増え測定誤差の増加につながる懸念もある。質問量の低減、回答時間の短縮、

.....

簡潔で回答負荷の少ない調査票設計が推奨されているが（例：日本マーケティング・リサーチ協会「インターネット調査品質ガイドライン」、現実はどうか推し測ることは難しい。

かつて多くの方々の協力を得てウェブ調査と他の調査方式との比較実験調査を行った。プロの回答者や速度違反者の存在、他の調査方式と異なる回答傾向（世論調査型質問の差違が顕著）、パネル間の人口統計学的分布の差違、パネル重複登録者の存在などが観察された。パラデータ分析から回答所要時間分布や完答・中断の回答パターンの特徴、初頭効果やストレートライニングの存在、回答制御の影響もみられた。欧米研究の報告にある調査方式間の検証結果と類似することも多いが日本独自の特徴もある（一部は「市場調査」284号、285号参照）。

自記式調査とくに郵送調査におけるインターネット利用者・非利用者間の差違に加えて利用者とウェブ調査回答者間にも違いがあること、とくに確率的・非確率的パネル間の違いは顕著で、確率的パネルの結果は非確率的パネルに比べ一般母集団を対象とした調査結果に近いことも分かっている。

多くのことが分かったがさらなる科学的検証が必要である。たとえば、総調査誤差アプローチ、とくに非標本誤差の低減による質の向上、かつてあった確率的パネルの再構築、パラデータ分析により調査票改善や回答し易い環境を作ること、種々の偏りを補正する加重調整法や調整に必要な確率標本に基づくベンチマーク調査の検討、調査倫理の徹底（個人情報保護、プライバシー確保）や調査への信頼を得る努力など多々ある。リバー・サンプリングやRDITなどが提案されているが同様の検証が必要であろう。

スマートフォンなどモバイル機器の普及でPCを介したウェブ調査とは異なる新たな課題が生じデータの質に及ぼす影響評価の検証が一段と複雑になった。これからは、従来の調査方法論の経験知に加え、電子調査票設計、パラデータ収集分析、ネットワーク構築などに関連する多様な技術要素の知識と経験が求められる。このため、異分野の横断的な情報共有、ウェブ調査に関わる企業や機関、研究者の連携・協働による組織的な研究が必須であろう。

欧米に比べ研究の質・量ともに遅れがあることは否めぬが、欧米研究を無策に倣うことは適切ではない。まずは日本独自の優れた抽出枠（住民基本台帳、選挙人名簿）を活用した確かな確率的パネルを構築し、非確率的パネルとの比較検証や実証研究が喫緊の要事であり、これが既存の非確率的パネルの信頼性を裏づけることにもなる。

幸い回答者行動を測定誤差の視点から検証することや、一般母集団から得た確率標本を用いて回答者内のインターネット利用者を対象にウェブ調査を行い比較する、ウェブ調査と他の調査方式の混合方式を用いるなどの学術研究もみられるようになってきた。商用はもとより、官庁統計、学術研究と広い分野でウェブ調査の利用が一般化している。信頼するに足るウェブ調査とは何か、より一層の“科学的な証拠”を示すことが問われている。

.....

（おおすみ・のぼる 統計数理研究所名誉教授）